

## 「2023（令和5）年度 全国公立高等学校・中学校海外教育旅行実施状況調査」まとめ

本格的な海外教育旅行再開の年となった2023（令和5）年度の海外教育旅行（海外修学旅行・研修旅行）を以下にまとめた。

### 【海外修学旅行】

- 公立高等学校123校15,559人、私立高等学校236校33,795人が実施。  
コロナ明け昨年度（公立高9校654人、私立高49校4,457人）から大幅に増加した。  
海外修学旅行実施率は、校数比で公立3.5%、私立17.6%となった。  
（実施率の対象は、文部科学省令和5年度学校基本調査高等学校による）
- コロナ禍前（令和元年度）同様、オセアニア（オーストラリア）、東南アジア、北アメリカが中心。修学旅行訪問国として圧倒的に多かった台湾も公立校の訪台により、回復に進んでいる。
- 韓国が急増している。（令和元年度参加人数比144%）

### 【海外研修（修学旅行外）】

- 公立高等学校521校13,556人、私立高等学校501校25,072人が、世界49カ国で様々な研修旅行を行った。  
再開2年目にして、令和元年度校数比で公立75.4%、私立79.9%、参加人数比公立90.7%、私立94.4%とほぼコロナ前の状態に戻りつつある。
- 実施月については、7、8月と3月の実施が中心となる。本年度調査結果では、7、8月よりも3月実施の回復が早い。

### 【訪日教育旅行】

- 海外教育旅行と共に、海外からの教育旅行受入れも再開された。34都道府県の高等学校で466校5,205人、25都道府県の中学校で144校8,323人の海外の中高生を受入れ学校間交流が行われた。  
特に長野県の公立中学校では、様々な国・地域から36校6,857人の海外学生を受入れがあった。

#### 《主な訪日国・地域》

高等学校：韓国（88校796人）、ヨーロッパ（63校202人）、台湾（60校1,312人）

中学校：北米・ハワイ（37校868人）、オセアニア（25校1,190人）、ヨーロッパ（21校2,000人）

### ◆物価高騰による様々なものの値上げと歴史的な円安が与える旅行費用への影響

公立高等学校修学旅行訪問国別旅行費用比較表（平均額）

|        | 韓国      | 台湾      | シンガポール  | マレーシア   | タイ      | ベトナム    | オーストラリア | アメリカ本土  | ハワイ     |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2018年度 | 98,251  | 113,589 | 154,418 | 147,456 | 154,513 | 140,805 | 217,365 | 261,710 | 234,315 |
| 2023年度 | 149,562 | 158,360 | 213,395 | 210,240 | 284,508 | 172,104 | 287,246 | 374,634 | 350,212 |
| 平均日数   | 4.2     | 4.4     | 5.1     | 5.2     | 5.4     | 5.0     | 6.8     | 6.7     | 5.5     |